

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

生理学という学問の特性のため、知識の伝授、記憶という以前に、概念や論理の理解が必須である。そのため学生には、一回の講義のなかのストーリーに集中してもらう必要がある。そこで、講義のストーリーに沿ったレジメを作成し、それをノート代わりにしてもらいながら、講義に集中してもらうように工夫している。

パワーポイントによる授業は、効果的ではあるが、すべてをパワーポイントにしてしまうと、講義が単調になり、ポイントがぼけてしまい、学生に集中力が薄れる。効果的な図表や動画などの提示にはパワーポイントを活用しているが、板書との組み合わせによるメリハリが大事だと考えている。

パワーポイントのもう一つの欠点は、一つの画面に多くの情報を書き入れられるので、逆に、情報過多になることである。パワーポイント作成にあたっては、1画面1フレーズ（あるいは1テーマ）を基本にして作成するように心がけている。

昔と比較して、教科書は廉価になり、コピーやネットも自由に気軽に利用できる状況なので、新しい知識の収集自体において、講義はむしろ不必要であろう。しかし、学問の根底をなす論理、思考、哲学は講義によって対面でしか伝わらないと考えている。CDやダウンロードで音楽を得る現代でも、コンサートやライブが廃れないことと同じ理由で、講義をライブのように大事にしたいと思っている。

● 学生への要望・アドバイス等

最近、「全部覚えないと理解できない」と考えて、講義内容をとりあえず覚えようとする人が増えている。でも、これは事実上不可能である。学問は事実やその背景にある原理、原則を理解して、運用できるまで高めることである。まずは、「何を言っているのか」理解することから学問をはじめて欲しい。簡単なことである。「へえ～」とか「おもしろい」とか「なるほど！」とか、人間の本質的能力である好奇心を働かせればよいのである。もともと、学問はおもしろいものなのだ。

大学は単に勉強して、単位とって卒業するところではない。一生の学問の基礎となる思考法、論理、知識を体得する方策を学ぶところであり、むしろ、その方策を創造する場である。とくに医療人は生涯学問を続けなければ務まらない仕事であるのだから、大学での学問のあり方が将来を左右するのである。

「覚える」だけの学問から速く脱却して欲しいと願っている。